

学校保健委員会 小委員会報告

2023年4月2日

於日本医師会館

日本医師会学校保健委員会

副委員長

弓倉 整

小委員会設置の経緯と目的

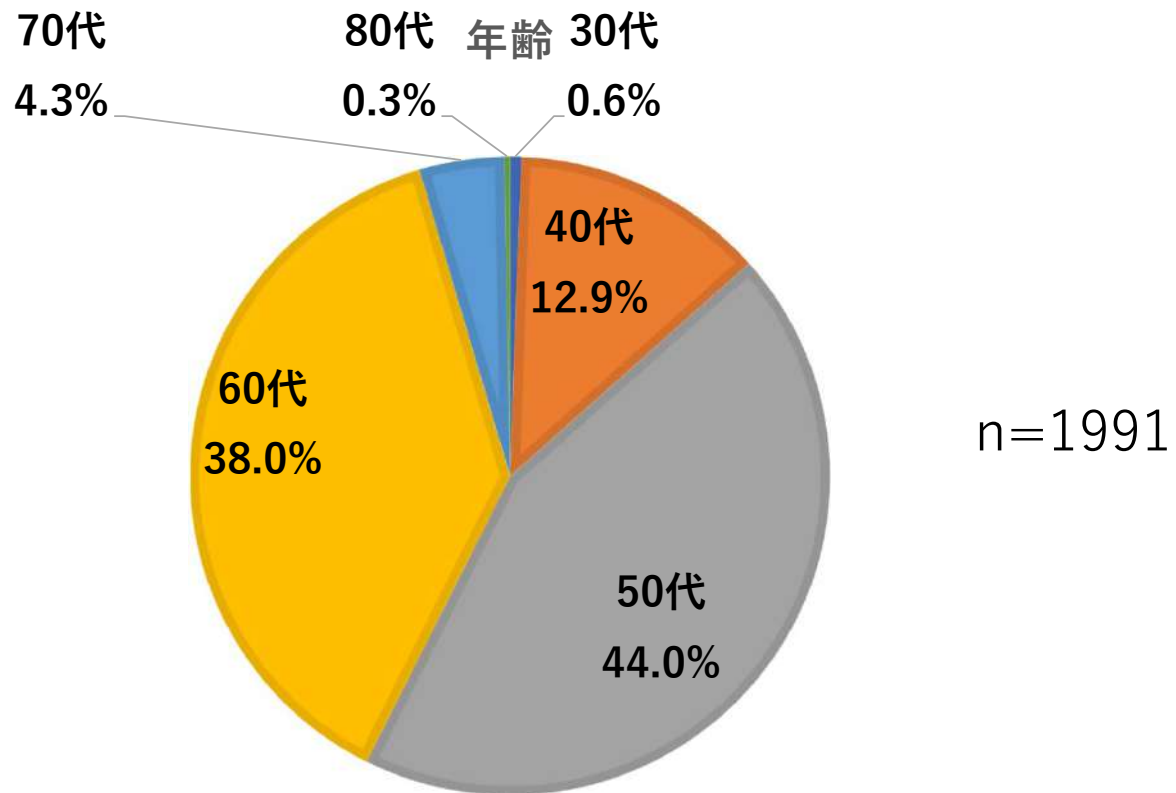
- **学校医のなり手がいない**という都道府県担当理事からの意見がある。学校医の報酬、待遇、漠然とよくわからないが面倒そうだという印象を持たれているようだと意見もある
- 現在既に学校医になっている会員、学校医になるかどうか迷っている会員に対し、「学校医の法的・倫理的・社会的意義」について「読みやすくわかりやすい」書籍を作成し、一般会員に向けて学校医の意義・職務内容など広く啓発に寄与したい
- 1993年と2004年に、日本医師会が作成した書籍があるが、日本医師会の作成する書籍として継続性を保ちつつ、最新の情報を提供する

学校医の現状はどうか？

平成28年度学校医の現状に関するアンケート調査報告から

- 平成28年4月施行の新しい健康診断、平成27年12月から施行されたストレスチェック制度等、学校医の置かれた環境変化に伴い実施された現状調査
- 調査対象
 - 都道府県各郡市区医師会（814箇所）の内科・眼科・耳鼻咽喉科学校医
- 調査期間
 - 平成28年11月28日～平成29年1月31日
- 方式
 - Webアンケート回答方式
- 総回答件数
 - 内科・小児科 1991、眼科 707、耳鼻咽喉科 689、合計 3387件

平成28年度学校医の現状に関するアンケート調査報告から 内科学校医の年齢



平成28年度学校医の現状に関するアンケート調査報告から

眼科及び耳鼻咽喉科学校医の地域的不足について、これらの科が不在の場合は内科学校医が代替しているのは約15.1%に過ぎなかった

Q16. 現在眼科医、耳鼻咽喉科医は地域により不足している懸念について

選択肢		回答	(%)	回答	(%)
担当しているすべての学校で、学校医として眼科医・耳鼻咽喉科医がおり、健診を分担して健診を行っている		1638	82.3%		
眼科学校医または耳鼻咽喉科学校医が不在の学校があった		351	17.6%		
上記選択肢を選択した場合、以下の質問にお答え下さい。(複数回答可)	眼科・耳鼻咽喉科学校医がともに不在のため、それぞれの科に対応する健診も行っている			53	15.1%
	眼科学校医が不在のため眼科健診も行っている			10	2.8%
	耳鼻咽喉科学校医が不在のため耳鼻咽喉科健診も行っている			35	10.0%
	眼科もしくは耳鼻咽喉科学校医が不在であるが、それぞれの科に対応する健診は行っていない			256	72.9%
未回答		2	0.1%		
合計		1991	100.0%	351	100.0%

※複数回答のため回答の総数は合計と一致しません。

平成28年度学校医の現状に関するアンケート調査報告から

学校医の職務参画状況についてのアンケートでは、62.1%が健診以外の職務に参画していた

■【内科・小児科、耳鼻咽喉科 2 科共通・・・法令上の学校医の職務】

Q17. 児童生徒等に関する学校医の職務（健康診断は除く）について

選択肢		回答	(%)	回答	(%)
健康診断以外の保健管理業務を行っている学校はない		754	37.9%		
健康診断以外の保健管理業務を行っている（1校でも実施していれば選択）		1236	62.1%		
上記選択肢を選択した場合、以下の質問にお答え下さい。（複数回答可）	学校保健計画の立案への参与			342	27.7%
	学校安全計画の立案への参与			198	16.0%
	学校環境衛生に関すること			359	29.0%
	健康相談			785	63.5%
	疾病の予防に関すること			639	51.7%
	感染症・食中毒の予防に関すること			719	58.2%
	救急処置に関すること			335	27.1%
	その他（自由記載）			171	13.8%
未回答		1	0.1%		
合計		1991	0.0%	1236	100.0%

※複数回答のため回答の総数は合計と一致しません。

平成28年度学校医の現状に関するアンケート調査報告から

■学校の教職員等との連携・意思疎通について

Q18. 養護教諭

選択肢	回答	(%)
よく連携している	846	42.5%
連携している	1008	50.6%
あまり連携していない	137	6.9%
合計	1991	100.0%

Q18-2. Q17にて「健康診断以外の保健管理業務を行っている学校はない」を選択している場合

選択肢	回答	(%)
よく連携している	232	30.8%
連携している	446	59.2%
あまり連携していない	76	10.1%
合計	754	100.0%

Q18-3. Q17にて「健康診断以外の保健管理業務を行っている（1校でも実施していれば選択）」を選択している場合

選択肢	回答	(%)
よく連携している	614	49.7%
連携している	561	45.4%
あまり連携していない	61	4.9%
合計	1236	100.0%

平成28年度学校医の現状に関するアンケート調査報告から

学校医と教職員との連携・意思疎通についてみると、養護教諭とは連携出来ているが、校長と連携しているのは約60%である

Q20. 担任の教諭

選択肢	回答	(%)
よく連携している	52	2.6%
連携している	268	13.5%
あまり連携していない	1670	83.9%
未回答	1	0.1%
合計	1991	100.0%

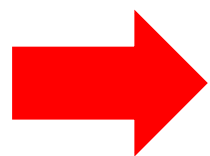
Q21. 校長または教頭

選択肢	回答	(%)
よく連携している	303	15.2%
連携している	883	44.3%
あまり連携していない	805	40.4%
合計	1991	100.0%

平成28年度学校医の現状に関するアンケート調査報告から

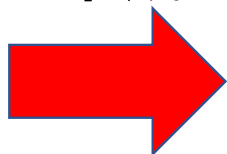
問：学校や地域において、学校医の業務で感謝されたこと、やりがいを感じたことはありますか？
(内科・小児科編)

選択肢	回答	%	性別	回答	%
ある	1287	64.6%	男性	1155	89.7%
			女性	132	10.3%
ない	703	35.3%	男性	647	92.0%
			女性	56	8.0%
未回答	1	0.1%			
合計	1991	100.0%			



約35%の学校医が、感謝されたこと、やりがいを感じたことがないと回答

平成28年度学校医の現状に関するアンケート調査報告から



Q26. 学校保健活動全般をより良くするために特に重要なことを選びください（複数回答可）

選択肢	回答	(%)
学校医を増やし、1人が受け持つ学校数を少なくする	551	27.7%
適正な学校医報酬にしよう	703	35.3%
学校医と学校側双方が学校保健活動のスケジュールをより柔軟に対応し、コミュニケーションの機会を増やす	984	49.4%
勤務医にも学校医として協力しよう	530	26.6%
学校医活動の具体的マニュアルがあると良い	892	44.8%
研修会を充実する	441	22.1%
児童生徒等の健康管理と教職員の健康管理を別の医師が担当する	325	16.3%
新たな課題への対応として、整形外科医、精神科医、産婦人科医、皮膚科医に協力医として入ってもらう	732	36.8%
都道府県、郡市区の教育委員会、医師会など関係者の連携の仕組みを構築する（資料7参照）	389	19.5%
学校医が学校を訪問し、養護教諭との連携をより緊密にする	292	14.7%
合計	1991	

内科・小児科編

※複数回答のため回答の総数は合計と一致しません。

過去に日医が作成した冊子とこれから

改訂

医師のための 学校保健

日本医師会 編

第一法規

目 次

発刊にあたって	
序文	
I 生涯保健における学校と地域	
1 生涯保健と医師	3
2 生涯保健における学校と地域	5
II 児童生徒の健康と生活	
1 児童生徒の成長発達の現状と課題	9
① 児童生徒の身体と心の年齢による変化と成熟	9
② 身体発達と身体の成熟	9
③ 精神発達の現状と課題	19
2 児童生徒の疾病災害の現状と課題	22
① 疾 病	22
② 災 害	35
3 児童生徒の生活環境の現状と課題	41
① 栄 養	41
② 住居・日常生活等	44
III 学校教育の現状	
1 学校教育の目的・目標	57
① 学校教育の目的	57
② 学校教育の目標	57
2 教育課程の編成	58
① 教 科	58
② 教育課程の編成	58
③ 学習指導要領	59
3 教育課程の中で特に学校保健に関係深い教科等	60
① 学習指導要領の総則における一般方針	60
② 教科・特別活動の体育	60
③ 学校給食	61
4 学校生活	63
① 授業日	63

e	1日の授業時間	63
e	始業時刻	63
4	学校生活における児童生徒の負担	64
5	訪問による教育	64
5	就学	65
1	学校の種類	65
2	就学義務と学校設置義務	65
3	就学手続	66
4	就学指導	66
6	教職員の資格と職務	67
1	教職員の資格	67
2	教職員の職務	68
7	学校運営の組織	77
IV 学校保健の構成		
1	学校教育と学校保健	83
2	学校保健における健康の意義	84
3	学校保健の構成と内容	86
1	保健教育	86
2	保健管理	90
4	学校保健の運営	91
1	運営の基本	91
2	教育計画	91
3	保健教育計画と運営	91
4	学校保健安全計画と運営	92
5	組織活動計画	92
5	学校医の身分と職務	97
1	学校医の身分と待遇の法的根拠	97
2	学校医の職務	97
V 医師と学校保健活動		
1	医師と学校保健活動	103
1	地域医師としての学校保健活動	103
2	学校保健管理活動上の留意事項	104
2	健康診断	106

1	就学時の健康診断	106
2	児童、生徒、学生及び幼児の健康診断	108
3	眼科領域の健診	127
4	耳鼻咽喉科領域の健診	127
5	職員健康診断	129
3	伝染病予防	133
1	学校において特に予防すべき伝染病	133
2	出席停止	133
3	臨時休業	134
4	その他の伝染病予防対策	135
5	伝染病予防に果たす医師の役割	135
4	傷害の防止・救急処置	136
1	学校における傷害防止計画	136
2	事故災害発生時の処置	136
3	学校医の指導	137
4	学校災害共済給付	137
5	健康相談	138
6	保健室	139
1	保健室設置の法的根拠	139
2	保健室の設備及び備品	139
3	保健室に関する学校医の指導	139
7	医師と学校保健教育	141
8	学校医と学校体育	143
1	医師の学校体育へのかかわり	143
2	医師と健康スポーツ	143
3	発育期に多いスポーツ障害	145
4	発育期のスポーツ障害の予防	146
9	医師と性教育	147
1	性教育の意義	147
2	性教育と健康教育	147
3	学校における健康教育と性教育の視点	148
4	教職員に対する医師の助言	149
5	医師自身による性教育実践の留意点	149
6	医師とヒューマンセクシュアリティ	150
10	学校医と学校給食	151

11	学校環境衛生	152
1	学校環境衛生の目的	152
2	学校環境衛生の現状	152
3	学校環境衛生にかかわる諸問題	154
4	学校医と学校環境衛生	156

VI 医師と学校保健組織活動

1	医師と学校保健組織活動の必要性	159
2	医師と学校保健組織活動の実際	161
1	学校医と教職員及び保護者との連携	161
2	学校における学校保健組織活動	161
3	医師会における学校保健(組織)活動	166
1	日本医師会における学校保健活動	166
2	地域医師会における学校保健活動	166
3	自己研修的活動	167
4	学校保健関係団体活動等	169
1	日本学校保健会	169
2	日本学校保健学会	169
3	日本小児保健協会	170
4	日本体育・学校健康センター	170
5	日本学校歯科医会	170
6	日本学校薬剤師会	171

資 料

I	学校保健及び学校医制度の変遷	175
II	学校環境衛生の基準	184
III	諸外国の学校保健	205
1	アメリカ	205
2	イギリス	206
3	フランス	206
4	ドイツ連邦共和国	207
5	学校保健と国際機関	207
IV	関係法規	209
1	文部省設置法	209
2	文部省組織令	209
3	学校教育法	210

4	学校教育法施行令	211
5	学校保健法	214
6	学校保健法施行令	216
7	学校保健法施行規則	217
8	学校保健法施行規則の一部改正通達等	225
9	学校給食法	226
10	学校給食実施基準	227
11	日本体育・学校健康センター法	228
12	日本体育・学校健康センター法施行令	230
13	日本体育・学校健康センター法施行規則	233
14	公立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の 公務災害補償に関する法律	234
15	健康診断の方法及び技術的基準	234

索引	241
図表索引	245

生涯保健における
学校と地域

日本医師会編

学校医の手引き



JMA 日本医師会

序	日本医師会長 坪井 栄孝	
はじめに	日本医師会常任理事 雪下 國雄	1
第1章 総論		
1. 学校教育と学校医	元国立公衆衛生院長 高石 昌弘	2
2. 学校医制度の歴史	蘇生会総合病院名誉院長・山形大学名誉教授 杉浦 守邦	5
3. 学校医の職務	和洋女子大学大学院総合生活研究科教授 村田 光範	10
第2章 学校保健		
1. 学校保健活動	日本学校保健会専務理事 内藤 昭三	14
2. 学校保健組織(学校保健委員会など)	東京都医師会理事 内藤 裕郎	18
3. 学校保健と地域医療	岐阜県医師会常務理事 青木 靖	22
第3章 健康診断		
1. 就学時の健康診断	東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野教授 衛藤 隆	25
2. 定期健康診断		
1) 目的と意義	東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野教授 衛藤 隆	28
2) 事前準備	東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野教授 衛藤 隆	29
3) 保健調査	東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野教授 衛藤 隆	32
4) 実施		
・身体計測	和洋女子大学大学院総合生活研究科教授 村田 光範	35
・栄養状態	和洋女子大学大学院総合生活研究科教授 村田 光範	38
・脊柱, 胸郭, 四肢	神奈川県医師会理事 富永 孝	40
・視力	日本眼科医会副会長 三宅 謙作	43
・聴力	日本耳鼻咽喉科学会 神田 敬	46
・眼の疾患	日本眼科医会副会長 三宅 謙作	47
・耳鼻咽喉頭疾患	日本耳鼻咽喉科学会 神田 敬	49
・皮膚疾患	五十嵐皮膚科医院 五十嵐俊弥	50
・歯および口腔	日本大学歯学部小児歯学教授 赤坂 守人	52
・結核	横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学教授 横田 俊平	54
・心臓疾患	帝京大学医学部小児科学教授 柳川 幸重	57
・尿	日本医科大学小児科教授 村上 睦美	61
・寄生虫卵	東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野教授 衛藤 隆	63
・その他	東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野教授 衛藤 隆	64

5) 事後措置(除, 健康相談)	東京都医師会理事	近藤 太郎	67
3. 臨時健康診断	東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野教授	衛藤 隆	70
4. 職員の健康診断	北海道医師会常任理事	西家 峰仙	72
第4章 健康相談と保健指導—健康教育をめざして			
.....	東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野教授	衛藤 隆	75
第5章 学校精神保健	東海大学教育研究所教授	山崎 見資	78
第6章 学校伝染病	日本医師会常任理事	雪下 國雄	85
第7章 アレルギー疾患			
1. アトピー性皮膚炎	のぐち皮膚科クリニック	野口 俊彦	90
2. 気管支喘息	群馬アレルギー再生臨床研究センター	黒沢 元博	94
第8章 スポーツ医学, スポーツ外傷・障害	神奈川県医師会理事	富永 孝	97
第9章 性感染症と性教育	日本産婦人科医会副会長	新家 薫	101
第10章 学校安全—災害と共済制度	大阪府医師会理事	酒井 國男	105
付録			
・ 学校保健法			114
・ 健康診断票			116
Topic			
・ 学校環境衛生(「シックハウス」を含む)	日本学校薬剤師会会長	杉下順一郎	13
・ 情報管理と学校医	和洋女子大学大学院総合生活研究科教授	村田 光範	34
・ 学校給食	和洋女子大学家政学部教授	坂本 元子	71

日本医師会編 学校医の手引き

2004年3月26日 第1版発行

編 集 / 日本医師会 地域医療第二課

編集委員 / 村田光範・高石昌弘・衛藤 隆

発 行 / 社団法人 日本医師会

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16

電話 03(3946)2121

制作協力 / 株式会社 協和企画

印 刷 / 興和印刷株式会社

©日本医師会 2004. Printed in Japan

○本書内容の転載・複製の際はあらかじめ許諾をお求め下さい。

※所属は平成16年3月現在

両者の目次比較（1993年版の第5章のみ小項目を示す）

- 1993年医師のための学校保健 目次
 - 生涯保健における学校と地域
 - 児童生徒の健康と生活
 - 学校教育の現状
 - 学校保健の構成
 - 医師と学校保健活動
 - 医師と学校保健活動
 - 健康診断
 - 伝染病予防
 - 傷害の防止・救急処置
 - 健康相談
 - 保健室
 - 医師と学校保健教育
 - 学校医と学校体育
 - 医師と性教育
 - 学校医と学校給食
 - 学校環境衛生
 - 医師と学校保健組織活動
 - 資料
 - 学校保健及び学校医制度の変遷
 - 学校環境衛生の基準
 - 諸外国の学校保健
 - 関係法規

- 2004年 学校医の手引目次
 - 総論
 - 学校保健
 - 健康診断
 - 健康相談と保健指導—健康教育を目指して
 - 学校精神保健
 - 学校伝染病
 - アレルギー疾患
 - スポーツ医学、スポーツ外傷・障害
 - 性感染症と性教育
 - 学校安全—災害と共済制度
 - Topic
 - 学校環境衛生（シックハウスを含む）
 - 情報管理と学校医
 - 学校給食
 - 附録
 - 学校保健法
 - 健康診断票

小委員会構成メンバー

《小委員会 委員長》

- 弓倉 整（日本学校保健会 専務理事）
〈日本医師会学校保健委員会 副委員長〉

《小委員会 委員（順不同）》

- 衛藤 隆（東京大学名誉教授 日本学校保健会 評議員）
〈日本医師会学校保健委員会 元委員長経験者〉
- 藤本 保（大分県医師会裁定委員 日本学校保健会 監事）
〈日本医師会学校保健委員会 元委員長経験者〉
- 林 伸樹（兵庫県医師会 理事）
- 細井 尚人（千葉県医師会 理事）
- 岩田 祥吾（御殿場市医師会 副会長）
- 柏井 真理子（日本眼科医会 常任理事）
〈日本医師会学校保健委員会 委員〉
- 朝比奈 紀彦（日本臨床耳鼻咽喉科医会 理事）
〈日本医師会学校保健委員会 委員〉

編集方針について

- 対象
 - 一般会員、特にこれから学校医となる医師、および現在学校医を勤めている医師
- 頁数（A4、100頁程度）
- 内容
 - 2004年度版学校医の手引 の構成をベースとする
 - 日医の作成する冊子として、以前の1993年度版、2004年度版との継続性は重視する
 - 第1章を総論とし、第2章に「学校医（仮）」と学校医に特化した章を作成する
 - 第3章、第4章、第5章は、それぞれ学校健康診断、健康相談・健康教育、学校において予防すべき感染症とし、第6章以降は、メンタルヘルス、運動器、性の問題、アレルギー、食育、学校安全など 学校医が知っておくべき内容の章建てを作成
 - コラムを充実させ、読みやすい冊子とする
- 魅力ある学校医像を描く
 - モチベーション（やりがい）、学校医の社会的地位、健診医との違い 等
- 執筆者選定を第2回小委員会（4月13日予定）で行う
- 学校保健委員会への諮りと報告
 - 小委員会の結果および編集方針については、学校保健委員会への諮りと承認を要する
- スケジュールは年度内発行
- 学校医不足の現状を鑑み学校医になることに負担感・抵抗感がでないよう配慮する

乞うご期待